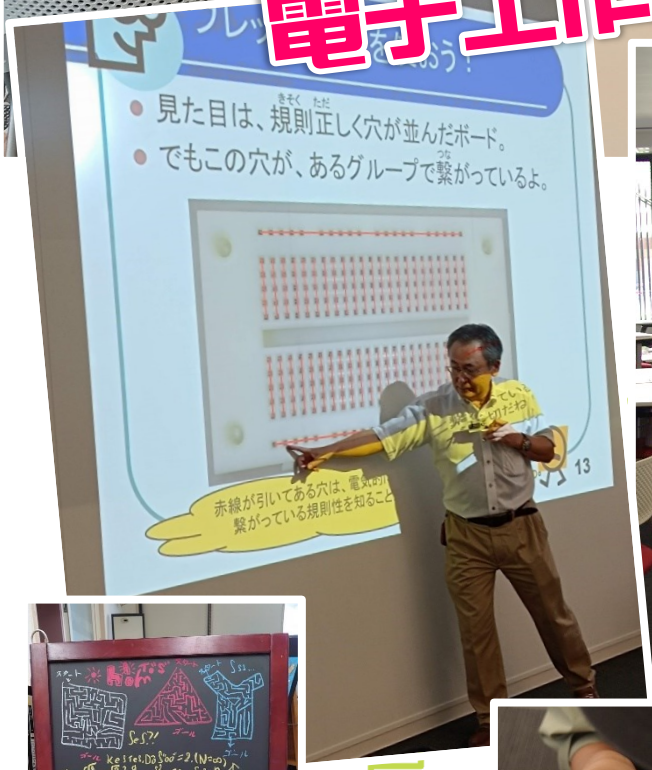
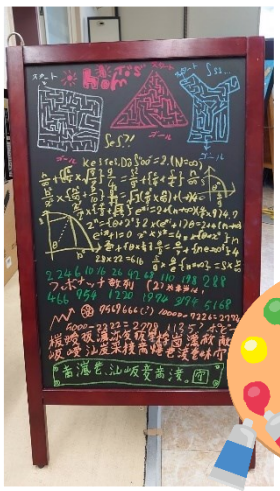
特定非営利活動法人 呉こどもNPOセンターYYY 広報誌　　2023.8.25 発行 ￥200

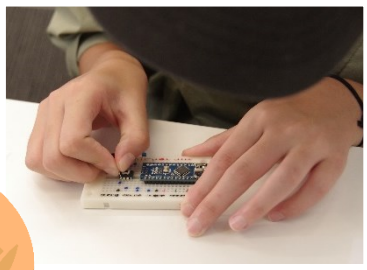
やっちき通信 243号

8月20日現在
子ども会員：123人
正　会　員　：　40人
賛 助 会 員：242人
27団体

電子工作に挑戦!!







今月の画伯

しりたがり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・02
おとな塾・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・03
鑑賞部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・04
子育て支援～これからの20年～・・・・・・・05
ティーンズ＋
/なつやすみ工作ワークショップ・・・・06～07
ティーンズ＋/わいわいアカデミー・・・・・・・08

やまもとかずこの知りたがりやトーク

立秋になっても、お盆を過ぎても、口を開けば出てくるのは「暑～い！」の一言。歳をとるにつれ、身体にこたえる暑さです。みなさんは、お盆休みいかがお過ごしだったでしょうか？YYY の方は、星空映画会がお天気に恵まれて、恵まれ過ぎて無事終了。ぼちぼち秋以降のイベント準備を進めているところです。

そんな中、行ってきました第 6 地区の夏まつり。始まるころに顔を出しに行けばいいわと思っていたら、15 時くらいに HELP の電話が。そもそも第 6 地区の夏まつりを始めたのは YYY。なのでもちろん快くお手伝いに。今年も地元のお店や地域の役員さん、PTA や生徒会が飲食やゲームのブースをそれぞれ担当。そのうちの一つは近隣に住む市の職員さんたち。ステージでは、夏まつりのポスターデザイン入賞者の表彰が行われた後、運推協さんの健康くれ体操や片山中学校吹奏楽部、お馴染みのおやじバンドがパフォーマンスでまつりを盛り上げました。他にも抽選会や花火もあったよ～

思い起こせば第 1 回目は、旧片山小学校改め片山コミュニティひろば。地域のまつりということで、地域の人をお手伝いにするのではなく「地域が主役！」をテーマにイベントを企画。当時もまちづくりメンバーをはじめ、ひろばを利用していたサークル、第 6 地区にゆかりのある人たちにブースやステージを担当して頂きました。YYY の方は、廃校だったということもあり、やりたい放題(笑) グラウンドの隅にかまどを作り、飯盒でご飯を炊き、職員室で大鍋カレーをつくって提供。汗だくだくになりながら、グランドと職員室を何度も往復。飯盒で炊いたご飯は「美味しい～！」と大好評でした。他にもくれタウンチームが子どもコーナーをつくったり、劇団おべんと箱がお化け屋敷で助っ人に入ったりと、みんな若かったわ～。終了後、職員室いっぱいになったゴミ袋の数にびっくりしましたが、今よりもっともっと手作り感満載でした。真剣に企画して、必死に取り組んで…すごい達成感があったし、楽しかった夏まつり。それは、今の YYY の事業も同じですけどね。実行委員会のみなさん、お疲れ様！そして、引き継いでくれてありがとう！

2009 年第 2 回夏祭り（やんちき通信 75 号より）

Wの刺激
～脳と足裏～

講師：藪木三恵さん
（「W の刺激」マスターインストラクター）

温暖化の影響か、毎年「〇年に一度の猛暑」とテレビで聞くような気がするこの頃ですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。この暑さでは外に出て運動をする気には到底なれませんが、今回室内でも気軽にでき、かつ良い汗がかける「W の刺激」という運動方法を教えて頂きました。

初めは太極拳のように板の上でバランスを取るのかなと思っていたのですが、予想と全く違いました。音楽に合わせてダンスのように体を動かしたり、足つぼの板の上に昇降・足踏みをしたりと活発に動くものだったのです。そして山場は何と言っても、腕と指先まで使った上半身の左右違った動き。手の動きだけでも大変なのに、足つぼ板の昇降と数字を数えるなど声を出す指示もあって頭の中が大渋滞でした。

広島県内唯一の貴重な「W の刺激」インストラクターの藪木さんによると、このように同時に二つ以上のことを行い脳へ刺激を与えることをシナプソロジーと言うそう。脳を活性化させる目的があります。まず刺激が入って、複数の刺激に混乱して動作がうまくできないという悲劇が起こり、その振り回され加減にかえって面白くなる喜劇に変化して、最後は体操を通して変化した自分の心身に感激する。この四つの「激（劇)」から「W の刺激」という名称がついたとのことでした。

体操後、一回やってみただけなのに地をしっかり踏みしめている感じのする足裏の感覚に驚きました。とりあえず足つぼ板は百均へ探しに行って、残りの夏は家で体操をして乗り切ろうと思いました。藪木さん指導の一般向け「W の刺激」教室もあるようですよ！　(芥川愛花里)

Ｎｅｘｔおとな塾

手話入門　多様性の時代、知って学んでブラッシュアップ！

講師：松岡雅之さん
（呉ろうあ協会会長）

【日　時】9 月 13 日(水)19：30～
【場　所】生涯学習センター603
【参加費】1200 円
※事前にお申込みください。

AIの時代に「狂言」を観る

～敷居は低く、思いは未来へ…～

今回で4度目となる狂言舞台公演、キャッチコピーは“AIの時代に『狂言』を観る”。

話し合いの最中に、私の中では？がいっぱい！「どういう事？」「？？？」空っぽな頭の中で考えて考えて考える…。私の中での AI の時代に狂言を観る意味って、なんだろう？ AI のイメージは、人工的で冷たい印象。狂言は、人間味があって温かい感じ。イヤイヤこういう事ではないか…。労働作業も AI がとって代わる時代。そのうち AI が人間を支配する日が来るんじゃないの？想像すると「キャ～怖い」でも AI に情報を入れていくのは、人間じゃん？そんなことにはならないか…。

「狂言」を観る意味って何？グローバル社会になり、仕事や留学など、若者が海外へ行く機会が多くなっている中、日本の伝統文化について話せるようになっておくと、スマートに話題提供できたりするかも。知ってることを、上手く話せる人ってかっこいい！そんな大人になって欲しい！という想いが生まれてきた。そうこう考えていると YYY が 10 周年を迎えた時、10 年後の自分はどうなっていたいか！を聞かれ、「熱く語れる人になりたい！」と言ったことを思い出した。

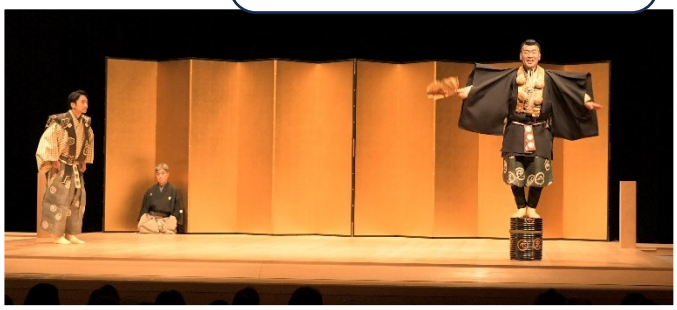
熱く語れる人になるには、どうしたら？今の仕事をする前は、YYY の活動の一つ人形劇サークルトロルで、よく保育園や幼稚園などへ公演に行っていた。そこで、子どもたちの反応が嬉しくてそれが演じる力になったことを経験した。また、この 20 年いろんな舞台を観てきた。その経験で語れるのは「観てくれる人がいるからこそ、公演が成り立つ。」ということ。結局、何かを長くやり続けることで、熱い想いは生まれてくるのだろうと思う。

敷居が高くならないように、狂言を広めていきたいと、色んな所で活躍されている萬斎さんも。

(岡本)

4年ぶりの呉公演
萬斎・裕基親子が出演!
10月8日(日)10:00～
チケット発売!

1000 人超えの会場で見た狂言！
子どもも大人もみんな大笑い！
またみんなで観ようね！



子育て支援～これからの 20 年を考える～

女子会からママ会へ　子連れ座談会

やんちき通信 239 月号で「子育てで嬉しいこと・大変なこと」を寄せてもらいました。異次元の子育て支援施策が打ち出されているなか、そういったものに助けを求めるには時間やお金がかかることも。日々、大変なこと困ったことが起こる子育て中のわたしたち、そういう時どうしてる？親兄弟？友だち？近所の人に頼る？以前事務所でやっていた『女子会』メンバーが絶賛子育て中なので、久しぶりに集まってしゃべりました。生まれたて 2 か月～12 歳までの子をそれぞれ育てている 5 人が参加。孫が生まれた事務局スタッフも一緒に足を延ばして座りました。

「保育園は送迎時の挨拶くらいしかしないよね」「若いお母さんばかりの場だと疎外感を感じてしまう笑」など、友だちを作るの難しい…なんて話題からスタート。2 か月前に第 1 子を産んだばかりの参加者は「人見知りだからこの先不安」と呟いていました。

コロナでどこも子育てイベントが中止になっていた影響も大きかった様子。最初の子のときは色々顔を出して情報を得ていたのに…という声も。コロナが 5 類になって、やっとベビーマッサージや運動会、園庭開放など、おや子が集まれるところが。行事が復活したということは、それを世話する役員活動も増えてきます。「忙しいからできない」「できるだけ楽な仕事に立候補する」と子どもを保育園に通わせている参加者。そこで、実際やっている人の「転勤族で知り合いがいないのでやっている」「先生に覚えてもらえるので園や学校に意見が言いやすい」という声も紹介。先生や他の保護者に覚えてもらえるということは、わが子が地域の中をふらふらしていても、誰かの目があるということ。親として安心できるというメリットもあるよ～。他にも「ずっと役員やってる友だちが学校のルールとかよく知ってるから教えてもらっている」という参加者も。

後日、この時紹介されたベビマに行ってみた参加者が！つながれ、子育て楽しいの輪！

役員でなくとも、昔からの友だち、職場の人など、相談できる人がいるだけで、子育ては少し気が楽に。どれだけ支援策が打ち出されても、子どもが巻き込まれる事件がなくならない背景のひとつに、地域につながりがない、誰にも頼れないと感じているおや子がいることも挙げられるのでは。政策ではカバーしきれない「つながり」を作るには、私たち子育てしている側も一歩踏み出す！が必要かもしれない。つい面倒って思ってしまう人付き合いだけど、わが子の安心安全につながるって思ったら、そうも言っていられない。「大変！めんどい！だけじゃないんじゃね～」と納得顔の参加者。保育園の選び方の話題でもまた盛り上がり、情報交換もできましたよ～。　（まゆまゅ）

ティーンズplus

大変≦やりがい！？
目まぐるしい日々、元気の源は…

今年度から中学校教師になり４ヶ月。あっという間に夏休みになりました。

最初は自分の勉強不足もあり、何から手を付ければわからない状態。常に教えてくれる人がいるわけではないので、自分で聞いて、調べて、どうにかやり過ごす毎日。生徒と対面するまでの１週間は会議ばかり、この１年間にやるべきことをかいつまんで伝えられましたが、とても追いつけませんでした。しかし、職場は優しい方ばかりで、聞いたら丁寧に教えてくださいました。

新学期の準備をし、いよいよ生徒と対面。大きな声で「おはようございます」と挨拶をしてくれたので、抱えていた不安が一気に吹き飛びました。この瞬間から怒涛の日々が始まりました。授業をしながら授業研究・準備をし、部活、クラス、生徒会、事務作業、研修、保護者対応、上げると切りがないほど仕事があることに驚き戸惑いました。部活が終わってからしか、授業準備など、自分の仕事をこなす時間がないことも実感。

また、体調を崩しても急に休むと生徒が自習になってしまうため、休みづらさを感じています。平日は特に寝る時間を確保するのもやっとで、辛いと思うことが何度もあり、その度にやめようと思いました。でも、それ以上に、授業を一生懸命聞いてくれたり、休憩時間に話しかけてくれる、また、誕生日を祝ってくれたり、部活に励んでいる生徒たちの姿に、元気が出る毎日でした。生徒の言葉のひとつひとつが元気の源になり、彼らがより良い学校生活を送れるように頑張りたいと思っています。辛いこと以上に楽しく幸せなことが日々の活力になっていて、今では私の中でやりがいのある仕事だと感じています。

（れな）

夏休み工作 ワークショップ

広にある国際大学の呉キャンパスで、電子工作に挑戦しました！目の前に準備された色とりどりの部品に、小学校低学年から中学３年生までの参加者は興味深々。YYY の理事でもある齋教授が、「紫色の穴に黒をさしてくださーい」と、子どもたちにわかりやすく、本当に丁寧に説明してくださいました。始めのうちは先生の言うとおりにできているかどうか恐る恐るやっていた子どもたちも、だんだん慣れてきて、中には自分で説明書を見ながらゴールしてしまう子も！あちこちでネズミがチューチュー鳴き、心臓が赤く点滅…。やったー！できた！と子どもたちのドヤ顔（笑） その満足気な顔に付き添いのお父さん、お母さんも嬉しそうでした。そして齋先生も満面の笑顔でした。

（くぼ）

合格させてくれ…！

自分と向き合い 挑んだ採用試験

ついに大学生最後の夏。待っていたのは教員採用試験に向けての戦いの日々でした。

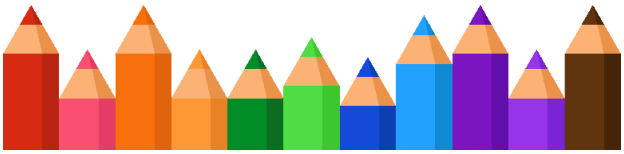
試験対策に動き始めたのは今年の２月。授業が落ち着いた後でした。過去問への惨敗ぶりからエンジンがかかった私は高校の教材を引っ張り出し、教育法規を調べ上げて、怒涛の勢いで問題を解き漁りました。

勢いで臨んだ一次試験。結果は何とか合格で、再び二次試験の対策に戻ります。二次試験は面接と模擬授業。これもまた、過去の情報に助けを求めながら対策しました。想定問答集はいつの間にか A4 で 40 枚。自分史上最も長く、深く自分と向き合った時間でした……！合格させてくれ！！という想いで学習指導要領の変遷や県の教育施策・課題など口頭試問的な質問に向けて情報収集も進めます。

とはいえ、二次試験は人を相手に行うもの。そこで頼ったのが一緒に教員を目指す友人たちです。練習をしながら互いに褒め合って肯定的な気持ちを高め、他の人の答え方、働きかけ方を見て自分を反省しました。あの時間は対策の中でも最も成長した時間だったと思います。皆で何を聞かれても絶対に答え切ってやるぞ！と意気込んでいました。

ところが、面接官の雰囲気は予想と全く違う。敵と見たのが恥ずかしくなるほど、私自身や教職に対する想いへの興味、温かさがありました。想定問答集のようにはなりませんでしたが、自分で考えたことは伝えられたのでは、と感じています。感動すらしたのは、模擬授業の生徒役の演技！本当の高校生のように不慣れな様子で音読するので、試験を忘れて本気で褒めたり成長を感じて嬉しくなったりしました。

教員採用試験を何とか終えて今考えていることは、やっぱり広島県で先生になりたい！ということ。今となっては試験のためにできることはありませんが、ひたすら勉強と善行を積みながら発表の日を待ちます！　(芥川愛花里)



8 月 26 日(土)国際大学呉キャンパス 3 号館 1 階 3102 号室　参加者 19 名

子どもの集中力、すごい！
夏休みの宿題になったかな？

ティーンズplus

『High School a 呉呉!!!～呉縦断高校文化祭実行委員会～』

高校生らしさあふれる企画にしたい!

暑い。日々の部活で走り回っている私だが、暑さに慣れるばかりか近頃は日向にいながら悪寒を覚えるようになった。これは歴とした熱中症の症状の一つである。みなさんもぜひ気をつけてほしい。

そんな私はこの夏、もう一つ力を入れているものがある。それはとあるイベントの企画会議である。主役は呉市の高校生であり、「呉の高校生史上最大で最高な文化祭」と題されたこのイベントには、高校の垣根を越え、呉市中の高校生が一挙に集うのだ。そして現在、募集によって集った 20 名ほどの高校生がその企画の思案を担っている。この話を聞いた際に私が真っ先に思いついたのは、私自身も所属している呉三津田高校軽音楽部をそのステージに立たせることだった。そこでもう 1 人の軽音部員を誘い、企画の実行委員に志願した。毎週日曜に行う定例会議や、これまでに 2 回の、親睦会を兼ねた合宿が野呂山キャンプ場、県民の浜で行われた。私はもう一つの部活である陸上競技部との予定を調整しながらこれらに出席してきた。メンバーと接していると、高校ごとの個性が見られておもしろい。皆違った空気、ノリ、考えをそれぞれ持っている。そんな中で三津田生として個性を発揮していきたいと思う。また、メンバーのうち運動部に所属しているのは私ともう 1 人のみしかおらず、そんな私が思いついてしまった企画が一つある。懸垂大会である。やはり筋肉といえば運動部の男子高校生は食いついてくるものであると推測し、提案した。ばかげた思いつきを実践していくことが、この勢いに任せる姿勢こそが、男子高校生のあるべき姿だと私は考えている。また我が校のみならず様々な高校から軽音、吹奏楽やその他たくさんの部活が集結する。そんな高校生らしさ溢れる文化祭、ぜひ多くの人に足を運んでほしい。

(ともる)

わいわいアカデミー

トワイライトキャンプ

打合せかいにかいめっ!

前回、晩ごはんメニュー決めたけど、テーマ「あっぱれ！！」イメージせず、決めたんよ。やっぱね～、テーマあってのキャンプなんよね。「あっぱれ！！」の言葉イメージを共有してから晩ごはん決めようや！ってことになって、ふせんに書き出し、わいわい言いながら全部で 83 個一斉にホワイトボードへ貼り出した。子どもも大人もわっくわくが一気にでっかく膨らんだ瞬間を肌で感じた。そのテンションのままメニューも考案。詳細はヒ・ミ・ツにしとくけど、晩めしの設計図を描いたりしたよ。設計図？？と思ったそこのあなた！トワイライトキャンプに申し込んで真相を明らかにしてね！

待ってるよ～(=^･^=)　　(キャサリン)

■発行日：2023 年 8 月 25 日（毎月 1 回発行）■発行責任者：米本美千恵
■発行元：特定非営利活動法人 呉こども NPO センターYYY 〒737-0051 呉市中央 3 丁目 11-12PAN ビル3F
■連絡：0823-24-5646■WEB：http://kure-yyy.org